

元気なモノ作り企業 摩擦圧接技術で国内シェア70%

東亜電工株式会社
代表取締役会長

辻田 恵 一 氏



今年設立80周年を迎えられました。貴社の概要を教えてください。

1940（昭和15）年に大阪の生地問屋が作った会社が電線の溶接を始めたと聞いています。1943年に不二越さんからドリルを溶接する仕事の話をいただき、富山工場を建設したのが現在に繋がっています。父がその時に入社しました。

当社は、ドリルやエンドミルなど切削工具の材料を加工していま

す。ドリルに使うハイス綱と呼ばれる金属は安くても1kg当たり1,500円以上する高価なもので、切削に使わない柄の部分を安価な金属にすることでコストを大幅に削減できます。2種類の金属を接合するのが当社の仕事です。

全国シェアは7割と聞きました。

昔は溶接に失敗してよく折れたようですが、1960年に社長だった私の父が、ヨーロッパの最先端の

溶接機を導入しました。年商を超える高額な機械でしたが、不良が大幅に減り、受注も拡大しました。

さらに1966年には、回転させた金属の摩擦熱で接合する摩擦圧接方式を採用し、東芝機械㈱と共同開発した国内1号機を導入しました。今では、不良率は100万分の1以下になっています。

こうした取り組みを評価してもらい、2007年に経済産業省の「元気なモノ作り中小企業300社」に選ばれました。

－台湾で品質管理向上－

台湾に子会社があります。

当社は1968年に、商社などと一緒に台湾で合弁企業の設立に参加しており、私も学生時代から父に同行して台湾で色々な人と知り合ってきました。

工具は業績の揺れ幅が激しく、売り上げが7割減になることもあるため、私は新規事業として台湾で商社をできないかと考えました。日本で色々な展示会を見て回り、産業機器に限らず農機具メーカーなど様々な業種にアプローチし、台湾で試作したりしてきました。

結果的には仕事にはなりませんでしたが、台湾の公的機関の技術員から「摩擦圧接機があるが、使い方が分からない」と呼ばれ、私がやってみせると、「仕事を紹介するから、ぜひ台湾に進出してほしい」と言われたのです。

1998年に東亜国際を設立し、工具だけでなく、自動車部品の加工も受注して大きく伸びました。しかし、価格競争が激しくなり、昨年1月に工場を売却し、現在台湾には商社機能だけを置いています。**台湾での製造はどうでしたか。**

最初は大変でした。不良品がダメな理由や商品の扱い方など、本

当に基本的なことから教えました。私は前職のスギノマシンさんで品質管理を担当していたので、台湾の協力会社も集めての勉強会を開いてきました。

その中には工作機械メーカーもあり、指導をしたそのメーカーの機械を当社でも導入しました。当時は「台湾の機械は1年ももたない」と言われましたが、20年経った今でも稼働しており、台湾のその会社は現在、大きく成長しています。

－現場の働きやすさ第一に－

経営理念を教えてください。

「感動の共有」です。私の仕事は、鉄工所の親父として将来像を描き、50人の社員みんなと一緒に同じ夢を見て、話し合いながら、1つずつやるべきことを塗りつぶしていこうよということです。

そのためには、お互いの理解が必要です。いつも現場を回って社員と世間話をしたり、今年はできませんでしたがバーベキューや忘年会を毎年楽しくやってきました。そんなことをしていると、社員は私が工場を回るのを楽しみにしてくれますし、挨拶もしなかった新入社員も向こうから声を掛けてくれるようになります。

人材教育はどのように。

当社はサイズ違いなどの特殊品の製造が多く、多い時には1日に

200通りもの図面が来ることもあります。外部講師に来てもらったり、作業内容や注意点をみんなで確認するTBM（ツール・ボックス・ミーティング）をやったこともあります。いずれも当社には合いませんでした。

成功例を聞くよりは、一番良いのは先輩の失敗談に学ぶことです。社員が失敗したら始末書を書くことになっていますが、記録として残すだけで、私は怒りません。その失敗が一番の財産になり、そこで先輩に教えてもらうことが一番身に付きます。

技術的な困難はどう解決しますか。

今までのチップで削れないような硬い材料を加工しないといけない時があります。そんな時は、私も入って「このメーカーにこんなチップがある」とか、「こんな会社でこんなことをしていたよ」などと、知っている情報を提供して道を開いていきます。

日本人の強みは「自分から行く」ことです。台湾人や中国人は仕事になるか分からないのに、わざわざ出かけては行きません。ファックスやメールで案内を出して、電話して終わりです。自分から動くことで、相手の状況や新しい情報が分かります。

工場では機械がランダムに並んでいるところもありました。

普通は「きれいに、まっすぐ

に」と指導するのですが、私は作業する人がやりやすいように、動きやすいように、自由にレイアウトして良いことにしています。

また、事務所の中にも材料などを置いています。気にしません。工場の社員が仕事をやりやすいように、材料にボルトを取り付ける前工程などは、事務所の女性社員がやっています。あくまで製造業ですので、工場の仕事がやりやすいことが一番です。

将来展望を教えてください。

経営方針は5年先の夢を掲げます。そのためには今、何をしないといけないのかと考えて実行する。状況が変化したら修正する。これを毎年繰り返してきました。

グループ3社の特長を生かして、色々なお客様が要望する部品を製造・供給できる体制を作ろうと計画していたのですが、コロナでストップしてしまいました。先行きは見通せない中でも、情報を集めていきます。

座右の銘は何でしょうか。

「日々前進、勇気を持って大胆に」と行動してきました。昔から「もっと考えろ、反省しろ」と言われてきましたが、前があるから進むのです。企業経営はそういうものだと思っています。

会社概要

東亜電工株式会社

創業：1940(昭和15)年2月
所在地：富山市中大久保129-1
資本金：1,800万円
事業内容：切削工具類の圧接ならびに旋削加工、各種機械部品の輸入販売
従業員数：46名(2020年10月現在)
売上高：8億6,000万円(2019年12月期)
関連会社：東邦電熔㈱、東亜国際股份有限公司
URL：http://www.tdwo.jp/

略歴

1949(昭和24)年富山市生まれ。1972年芝浦工業大学工学部卒業、スギノマシン㈱入社。1977年東邦電熔㈱、翌年東亜電工㈱へ入社し、取締役、専務などを経て、1994年2月に両社の社長に就任。1999年台湾の東亜国際(股)公司董事長。2018年2月から東亜電工㈱代表取締役会長。

